



中国の開港と日本の開国 Opening of Ports in China and Opening of Japan

科目提供大学名	神戸女学院大学
担当教員	蔭木 原洋 (文学部 総合文化学科 特任教授)
単位数	2 単位 ○ 担当教員が変更となりました。後任：文学部総合文化学科 教授 河島 真
最大授業定員	40 名
開講学期	前期 4 時限 (17:50 ~ 19:20) 木曜日 (4月11日 ~ 7月18日)
成績評価	出席、授業への参加度、講義内容に関するレポートで評価する。
テキスト	必要に応じて、その都度資料を配布する。
参考文献	特になし
授業以外の学習方法	特になし
その他の特記事項	参加受講生で各自関心のある「中国の開港と日本の開国」の事例を 1 つあげて研究・報告する。
講義概要	産業革命の影響、中国の開港と日本の開国との背景とその影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、相互に関連付けたりして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・ 歴史に見られる課題を把握し、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論する力を養う。 ・ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (奥野) 2. ペリー来航 (河島) 3. アヘン戦争 (小林) 4. 太平天国の乱 (小林) 5. 同治の中興 (小林) 6. 桜田門外の変 - 幕藩体制の動揺 - (河島) 7. 明治初期の日本外交 (河島) 8. 近代東アジア条約港市の「租界」・「居留地」(彭浩・大阪公立大学) 9. 脱亜論 (河島) 10. ロシアの極東政策 - 日清・日露戦争 - (河島) 11. 辛亥革命と日本 (河島) 12. 研究発表① (河島) 13. 研究発表② (河島) 14. 研究発表③ (河島) 15. まとめ (河島) <p style="text-align: right;">【更新履歴】 1.担当教員の変更 (2024.4.18) 2.授業計画・内容の一部変更 (2024.4.18)</p>

「中国の開港と日本の開国」・「海域史から見る台湾」

藤木 原洋（文学部 総合文化学科 特任教授）



1. 研究分野は、歴史教育学、台湾史、洪武帝（明の太祖）期の東アジア外交史、学校教育学（博士）。長年にわたり兵庫県の高等学校教員、管理職として勤務した。（公財）兵庫県国際交流協会、関西学院大学非常勤講師（現在に至る）、神戸国際大学非常勤講師を経て現職。
2. 教科教育における「海域史」、特に「海域史から見た台湾」の研究。
従来の歴史教育は、各国史が中心となってきた。新学習指導要領に提起されているように、海域史の考えは、「世界から見た日本」に着目した教科教育に適う。そして、海域史の視点から、新学習指導要領に応じた教材開発を行っている。
3. 5W1H。特にWHYとHOWを大事にする授業を行っていく。受講生の歴史的知識をつなぎ合わせて、ストーリーになるような講義を行いたい。日本の開国は、アメリカの力による開港と考えられがちであるが、当時の江戸幕府の官僚たちの先見性が、後の日本にとって大きな役割を果たした点について受講生と共に考えていきたい。
4. 高校生まで学んできた歴史は、「いつ、どこで、だれが、なにをした」ということを中心に学んできました。その歴史を「なぜ」「どうして」という視点から見ると、歴史が「勝者の歴史」であるということが分かってきます。いろいろな観点・立場から歴史を学ぶ楽しさを、受講生の皆さんと共に勉強していきたいと思えます。